

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2018年9月[第84号]



活動の方向性	マラウイ共和国での NGO 登録と事業形成	永岡 宏昌
東京便り	1997 年と今—事務所そして「ひと」	佐久間典子
マラウイ	マラウイのパロンベ県はどんなところ？	
コラム	ケニアとマラウイの人口と GDP(国内民総生産)を比較	鶴田 伸介
マラウイ	マラウイで覚えたボードゲーム「バオ」の遊び方	飯野ちひろ
事務局から		

写真左・中 ブランタイヤ市でバオのアマチュア・ミニトーナメント(個人戦)—3 戦目の白いシャツの人が勝利

写真右上・右下 その他の場所でも見かけたバオで遊ぶ人たち

マラウイ共和国での NGO 登録と事業形成

代表理事 永岡 宏昌

当会は設立した 1998 年から今年の 3 月までケニア共和国で活動してきました。現在、マラウイ共和国という新しい国で事業形成と NGO 登録を進めています。20 年前にケニアにおいて、いくつかの地域を訪問して対象に選んだムインギ県で、県知事の下承を取り付けたこと。実質的な NGO 活動として、小学校への教科書供与を行ないながら、地域が解決を必要としている問題を現地調査し、教室建設を開始したこと。並行して NGO 登録を進めたことを思い出します。登録できたのは翌 1999 年でした。しかし、ケニアではこの 20 年間で、外国の NGO が地域の弱い立場の住民のために活動することを歓迎する雰囲気は薄れていき、さまざまな制限が加えられるようになりました。あのような形での事業の形成は難しくなっています。マラウイでも、まず現場で実質的な活動をしながら、事業を形成することは認められていません。NGO 活動を開始する前に、中央政府レベルで具体的な活動計画を提示して、NGO 登録を完了することが必要です。しかし、中央から事業形成の相談を始めると、住民の具体的なニーズからずれる懸念があります。

このため 3 年間ほど前から中央政府を介

さずに数県を直接訪問して、行政官や教員・住民に話を聞き、初等学校の様子を観察しました。その中で、国の統計データ資料で貧困県とされるパロンベ県において、実際に初等学校の教室不足は深刻で、込み合った教室や青空教室が多くみられ、入学した子どもたちの多くが低学年で学校を離れている状況を確認しました。それにもかかわらず教室建設への国際援助が進んでいない状況や、また、子どもの健康や性に関わる状況も深刻であることも確認しました。一方、保護者が教室建設に取り組もうとする潜在的な意欲も確認できました。

これらをふまえ、パロンベ県知事の口頭での合意を得て、同県で事業を形成することに決め、日本のドナー（援助提供機関）との話し合いを開始しました。複数のドナーとなった 1 年以上の 3 度の提案を経て、8 月に事業の枠組みについて理解が得られたため、当会とパロンベ県知事との間で活動覚書を締結しました。当会のマラウイでの最初の公文書になります。今後、この覚書を根拠に、中央政府で NGO を管轄するジェンダー・地域サービス省の承認、マラウイ NGO 協議会への加入、NGO 委員会への NGO 登録の手続きを進めていきます。

東京便り

1997 年と今—事務所そして「ひと」

事務局長 佐久間 典子

マラウイにおける当会の最初の公文書である、パロンベ県知事との覚書の署名は 9 月 12 日のこと。9 月 13 日、東京事務所にその PDF（紙に印刷するイメージを電子的に保存したファイル形式）を添えて、マラウイから E メールで連絡がありました。マラウイと日本の時差はマイナス 7 時間。ほぼ即日、安堵を共有しました。

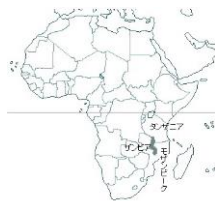
東京事務所で保存しているもっとも古い文書は、21 年前の 1997 年 9 月 3 日付、永岡あてのナイロビからのファックスです。ケニアで活動していた NGO を辞めた中塚史行さん（初代調整員）と國枝信宏さん（初代駐在員、現理事）が、新しい NGO の設立の意志を問いかけています。次の書類は、9 月 16 日にナイロビから送信された E メール。市内で利用した電子メールサービスは日本語が使えないということで、英文とその翻訳が一緒につづられています。國枝美佳さん（現準理事）が加わって 3 人で話し合った内容が書かれています。「なぜ日本の NGO がアフリカで働くのか」について、「長期的・ボトムアップ的・持続可能な開発が必要」は 3 人の一致した思いでした。メールの費用は 100 シリング（約 200 円）。9 月 23 日付、永岡の返信は NGO 設立についての第一案になっています。

この段階ではナイロビにも東京にも事務所はなく、長期滞在用のアパート・ホテルで話し合い、書類を作成。現在、マラウイでもブラントイヤ市の宿泊施設のそれぞれの居室が仕事場で、週 1 回のスカイプ（インターネットの電話サービス）による東京事務所とのミーティングのときはスタッフが集まります。進化した情報伝達手段のスカイプと比べ、存在感がなくなったファックスは、1997 年当時は現役。永岡と共に NGO 設立に向けて動いた工藤孝明さんとの間の情報共有に使われていました。準備期間の資金面を支えた工藤さんは、国内でケニアでの活動を支援していた方です。12 月 23 日に開いた設立総会の参加者は、工藤さん、國枝信宏さん・美佳さん、石井優子さん（ケニアで活動）、津嘉山奈央子さん（タンザニアで活動）、澤田祐介さん（ケニア、ウガンダとの交流活動）、永岡の 7 人。

そして 20 年。公的支援金が終了し、次のめどがたっていない昨年末とこの夏の募金のお願いに、「自己資金、がんばってください」「どこも厳しいですね。ささやかですが、カンパ」「NGO の運営は、いつも厳しいものですね。貧者の一燈ながら、微意を表したく」といったコメントも入ったご寄付をいただきました。「ひと」という資産をありがたく思います。

マラウイ・パロンベ県はどんなところ？

マラウイ共和国は
アフリカ南部にある
内陸国。面積は 11.8
万平方キロメートル
(日本の約 3 分の 1)
で、人口は 1,862 万



パロンベ県は南部にあ
るマラウイ第 2 の都市、
ブランタイヤ市から東に
約 100 キロ。面積は
1633 平方キロメートル
(香川県の 90%弱)、人

口は約 31 万人(2008 年 国勢調査、香川県の 3 分の 1 強)。

○東はモザンビークとの国境になり、北はマラウイ湖に次ぎ 2 番目に大きいチルワ湖の南岸で、南部に国内の最高峰ムランジェ山(3002メートル)があります。複数の丘があり、多くの川が流れています。乾季は 6 月～9 月、雨季は 10 月から 5 月(県知事事務所で入手した資料では、そのうち降水量の多い 11 月から 3 月を「降水期」)。

○住民は、ロムウェ人、ヤンジャ人、ヤオ人。全国 27 県のうち 5 番目に貧しい県です。

○公立の初等学校は 88 校、生徒総数約 15 万人。うち 1 年生は約 3 万人、8 年生約 7500 人で、各学年で 20%ずつ生徒数が減少(県教育局の記録では中途退学約 6000 人、留年約 35,000 人)。恒久的に使用できる教室の数は、947 室で、1 教室あたりの生徒数は平均 160 人(仮設の教室や青空教室では降雨時には授業ができません)。

○公立中等学校(4 年制)が 12 校あります。

首都リロングウェ。

○アフリカ大地溝帯の南部で、アフリカで 3 番目に大きな湖マラウイ湖(タンザニアとモザンビークではニアサ湖)などがあります。

○主要な民族グループは、チェワ人、トンガ人、ヤオ人で、言語は公用語のチェワ語と英語、そして各民族グループの言語です。人口の約 75%がキリスト教。

○1964 年に英国から独立し、66 年、マラウイ議会党による一党制。93 年、国民投票により一党制から複数政党制へ移行しました。政体は共和制。

○主要産業は農業—たばこ、メイズ、茶、綿花、ナッツ、コーヒー。一人当たり GNI(国民総所得)が 320 米ドル(2017 年)の貧困国で、全国の貧困人口(1 日 1.90 ドル未満で生活する人)の比率は 50.7%にのぼります。

○2015 年までの「万人のための教育(EFA)」運動の展開で、初等学校(8 年制)に入学する子どもは大幅に増加しました。



コラム

ケニアとマラウイの人口と GDP(国内総生産)を比較

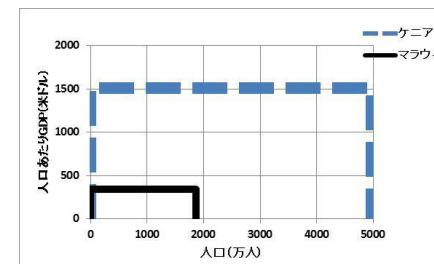
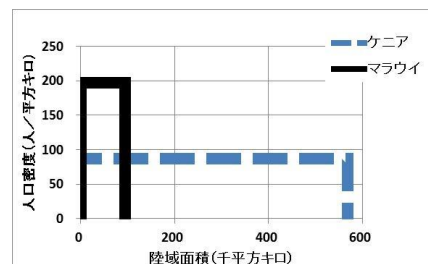
理事 鶴田 伸介

CanDo が 20 年にわたって活動してきたケニアと、新しく活動を始めたマラウイの基礎的な指標を World Development Indicators で比べてみると、下表のように人口密度以外ではマラウイがケニアを大きく下回っています。マラウイにはナイロビのような大都市はなく、首都リロングウェ市の人口はナイロビ市の 4 分の 1 弱で、ブランタイヤ市はリロングウェ市を下回っています。面積、人口、経済面でケニアより小規模な国です。

図 1 陸域面積、人口密度、人口の比較
横軸と縦軸は両国の 2017 年の陸域面積と人口密度を示し、長方形の面積が人口を表しています。

図 2 人口、GDP/人口、GDP の比較
横軸と縦軸は両国の 2017 年の人口と人口あたり国内総生産(GDP)を示し、長方形の面積が国内総生産(GDP)を表しています。

2017 年の基礎指標	ケニア	マラウイ	マラウイ/ケニア
陸域面積(km ²)	569,140	94,280	17%
陸域面積あたり人口密度(人/km ²)	87.32	197.52	226%
人口(万人)	4,970	1,862	37%
人口あたり国内総生産(GDP)(米ドル)	1,507.8	338.5	22%
国内総生産(GDP)(億米ドル)	749.4	63.0	8%



マラウイで覚えたボードゲーム「バオ」の遊び方

事務局員 飯野ちひろ

2人で遊びます。32のマス（1人8マス×2列）にコマを2個ずつ（計64個）セット。

(図0)	1	2	3	4	5	6	7	8
後A	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
前A	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
前B	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
後B	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●

◆プレイヤーの1人が相手に見えないように、手の中に予備のコマ2個を隠す。相手は左右を予想して言う。外れたら隠したプレイヤー、当たったら相手の先攻でゲームを開始する。

◆先攻は、自分の陣地の決まったマス（白は前A4、グレーは前B5）のコマを取り、進行方向（時計回りまたは反時計回り）を決め、1個ずつ自分の陣地のマスに入れていく。

○例をあげて説明—プレイヤー①の陣地<白>、プレイヤー②の陣地<グレー>

○プレイヤー①が先攻。自分の陣地<白>の前A4のコマ2個を取り、反時計回りに前A5と前A6に1個ずつ入れる。(図0)→(図1)

◆最後のコマを入れたマスにコマが2個以上あり、かつ、向かい合う相手の陣地のマスにコマがある場合、自分のマスと相手のマスのコマを全て取り、逆方向に1個ずつコマを入れていく。

◆最後のコマを入れたマスにコマが1個の場合、ターン終了。

○<白>の前A6と相手の陣地<グレー>の前B6のコマ計5個を取り、時計回りに前A5～A1と1個ずつマスに入れる。(図1)→(図2)

○<白>前A1と<グレー>前B1のコマ5個を取り、反時計回りに前A2～A6と1個ずつ入れる。(図2)→(図3)。ターン終了。プレイヤー②<グレー>に代わる。

◆後攻は自分の陣地の2個以上コマがあるマスを選んでコマを取り、進行方向（時計回りまたは反時計回り）を決め、コマを1個ずつマスに入れていく。

◆最後のコマを入れたマスにコマが2個以上あるが、向かい合う相手の陣地のマスにコマがない場合、自分のマスのコマを取り、進行方向は変えずに1個ずつコマを入れていく。

○プレイヤー②が自分の陣地<グレー>の前B5のコマ2個を取り、反時計回りに前B4、前B3に入れていく。(図4)

○相手の陣地<白>の前A3にはコマがないので、<グレー>前B3のコマ3個を反時計回りのまま、前B2、前B1、後B1に入れる。(図4)→(図5)

◆最後のコマを入れたマスにコマが2個以上あるが、後列(後A・後B)の場合、自分の陣地のマスのコマだけ取り、進行方向は変えずに1個ずつコマを入れていく。

○<グレー>後B1の3個だけ反時計回りのまま、後B2～B4に入れる。(図5)→(図6)

◆自分の陣地の前列のマスにコマがなくなったとき、または前列と後列に2個以上のコマがあるマスがなくなったときに、そのプレイヤーが負けて、ゲーム終了。

(図1)	1	2	3	4	5	6	7	8
後A	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
前A	●●	●●	●●	→	●●●	●●●	●●	●●
前B	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
後B	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●

(図2)	1	2	3	4	5	6	7	8
後A	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
前A	●●●	●●●	●●●	●	●●●●	←	●●	●●
前B	●●	●●	●●	●●	●●		●●	●●
後B	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●

(図3)	1	2	3	4	5	6	7	8
後A	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
前A	→	●●●●	●●●●	●●	●●●● ●	●	●●	●●
前B		●●	●●	●●	●●		●●	●●
後B	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●

図3と図4は続いていません。

(図4)	1	2	3	4	5	6	7	8
後A	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
前A	●●			●●	●●	●●	●●	●●
前B	●●	●●●● ●	●●●	●●	←	●●	●●	●●
後B	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●

(図5)	1	2	3	4	5	6	7	8
後A	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
前A	●●			●●	●●	●●	●●	●●
前B	●●●	●●●● ●●	←	●●	●●	●●	●●	●●
後B	●●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●

(図6)	1	2	3	4	5	6	7	8
後A	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●
前A	●●			●●	●●	●●	●●	●●
前B	●●●	●●●● ●●		●●	●●	●●	●●	●●
後B	→	●●●	●●●	●●●	●●	●●	●●	●●

事務局から

報告

■6月26日、JICA 東京における JICA 主催の当会の事業完了報告会で、代表理事(兼事業責任者)永岡宏昌が発表。

■7月25日、不忍通りふれあい館で CanDo 報告会「ケニアにおける20年間の活動を振り返って」を開催。

◇組織

○8月11日、CanDo 事務所で2018年度第3回理事会を開催。2018年度1月～7月の活動報告、1月～6月の東京事務所の会計関係の報告、1月～7月のナイロビ事務所の同報告、および2018年度8月～12月の活動計画案と7月～12月の予算案を確認しました。

◇支援

○外務省 NGO 海外スタディ・プログラムによるマラウイでの事務局員 飯野ちひろの研修期間を、当初の予定の3か月から1か月延長。

◇人の動き

○8月31日、永岡がマラウイに出張。

○9月12日、飯野がマラウイから帰国。

お知らせ

■9月29日(土)・30日(日)

グローバルフェスタ JAPAN 2018 に出展

・時間: 10:00～17:00

・会場: お台場センタープロムナード(シンボルプロムナード公園内)

・最寄り駅: りんかい線「東京テレポート駅」から徒歩1分/ゆりかもめ「青海駅」から3分/同「お台場海浜公園駅」から7分

・ウェブサイト: <http://www.gfjapan2018.jp/>

・主催: グローバルフェスタ JAPAN 2018 実行委員会/共催: 外務省、(独行)国際協力機構(JICA)、(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)

・当会のブースの番号: 110(青海駅側の道、駅に向かって左手の奥)

・ケニアの活動とマラウイの状況を紹介するパネルを展示。テーブルではボードゲーム「パオ」で遊んでいただきます。

■12月にマラウイでの調査の報告会を開催します(日時、場所は未定)。

■12月に発行する次号に、『CanDo 20年の歩み』を同封する予定です。

CanDo アフリカ [第84号]

2018年9月26日発行

発行人:

永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

<http://www.cando.or.jp/>

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会